

緑区戦時体験記録集 復刻版



2025年8月15日 戦争体験を語り継ぐ会

《はじめに》

このたびは『緑区戦時体験記録集 復刻版』を手にとっていただき、誠にありがとうございます。

「戦争体験を語り継ぐ集い」（名古屋市緑生涯学習センター主催）は、1989年（平成元年）に始まり、年に一度の開催を重ねながら、2025年には通算36回を数えるまでになりました。第6回（1994年）以降は、私たち「戦争体験を語り継ぐ会」が運営を担い、毎年『戦時体験記録集』を発行してまいりました。

このたびの復刻版は、これまで発行した記録集全てを原本のままデータ化しました。しかし、発行から年月が経過しているため、一部には原本の状態が悪く、文字がかすれていたり、紙面の背景が黒ずんでいたり、文字が切れて読みにくくなっている箇所があります。あらかじめご了承くださいますと幸いです。私たちは可能な限り原文の雰囲気や記録の真実性を損なわぬよう努めております。

なお、巻末には「付録」として、第一集以前（1989年・1990年・1992年）の戦争体験記録を収めた『みどりフォーラム実行委員会記録』から、本集いに関連する証言のみを抜粋して再録しました。「みどりフォーラム」は、地域の課題を住民自身が考え、テーマごとにブースなどを設ける形で、緑生涯学習センターと住民が協働開催していた取り組みであり、本集いの原点の一つとなっています。

記録集に綴られているのは、戦争を実際に体験された方々による、悲慘な記憶の証言です。その語りには、文字を超えて心に迫る「実感」があります。戦争を知らない世代がこれらの声に触れることで、

平和や命の尊さについて深く考えるきっかけになればと、私たちは願っています。「記録として残す」という行為は、「二度と戦争を繰り返してはならない」という強い思いと、未来への切実なメッセージそのものなのです。

こうした活動が長年続けられたのは、シベリア抑留から帰還された故・橋詰四郎さんの情熱と信念によるところが大きいです。橋詰さんは第3回の集いに語り部として参加されたのち、会の中心的存在として記録集の編集・発行に尽力してくださいました。「戦争被害や加害を正しく記録する。少しでも戦争賛美につながる表現があれば、絶対に掲載しない」——それが橋詰さんの譲れない姿勢であり、今もなお私たちの活動の指針となっています。編集会議での真摯な姿勢、語り部への敬意ある姿は、今も私たちの心に深く刻まれています。

戦争は、戦場だけでなく、銃後と呼ばれる国内の暮らしにも極限状態をもたらしました。人々は時に「被害者」となり、また時に「加害者」ともなり、あるいはその両方の立場を生きることもありました。体験を語るという行為は、語り手にとって過去の傷をもう一度開くことでもあります。それでも「命の大切さを伝えたい」という強い思いで語られた言葉には、私たちが未来へ受け継ぐべき重みがあります。

本書は、小・中・高校の生徒の皆さんにもぜひ手に取っていただきたい一冊です。戦時当時の表記により、読みづらい箇所もあるかもしれませんが、それもまた歴史の一部であり、時代の空気を映し出すものです。かつて軍国主義的な教育が多く、戦争被害と加害を生んだという事実をふまえ、教育の場では人権、平和、命の尊厳について考える教材として活用いただければ幸いです。

《読み方のご案内》

目次から関心のあるタイトルを選んでお読みください。旧字体や歴史的仮名遣いを含む記述は、当時の雰囲気損なわぬよう原文のまま掲載しています。また、現在の人権感覚から見ると不適切と感ぜられる表現が含まれている場合もありますが、これは史実を正確に伝えるためであり、差別を助長する意図は一切ありません。

《編集後記》

膨大な情報を一つにまとめるという作業は、意義深いものであると同時に、果たして実現可能なのかという不安も抱えるものでした。予算やページ数などの制約を考慮すると、「書籍」という紙媒体での発行は難しく、最終的にはデータベース形式での配布を目指すことになりました。

構想から足かけ 3 年——。完成までには長い歳月を要しました。これまで発行されてきた各記録集の背後には、今は亡き多くの先人の方々をはじめ、表に出ることのなかった数多くの関係者の尽力があったことに、あらためて思いを馳せています。

今回の復刻版の編集にあたり、名古屋市緑生涯学習センターの関係者の皆さま、ピースあいちの皆さま、そして編集作業に多大なるご尽力をいただいた浅生卯一さま、さらに仕上げの段階で惜しみないご支援をくださった、フリー・スタイル・スクール「ミズニールンド」主宰の水野晴仁さまに、心より感謝申し上げます。

世界の平和を願いながら、ここに編集後記とさせていただきます。

お問い合わせ先
戦争体験を語り継ぐ会 代表 荒川 淳子
携帯電話：090-3582-3027

2025年8月15日 戦争体験を語り継ぐ会 会員一同

目次

発行にむけて	
▽戦時体験記（1）△	
戦争末期の国土防衛軍	（花房達夫） 3
戦闘中負傷現認書	（橋詰四郎） 8
我が工兵隊	（牧圭以） 12
兄の出征そして玉砕	（川島照男） 18
私の体験、東京大空襲	（川島照男） 19
戦時下の衣食住	（川島照男） 21
戦死者、戦没者の碑	（川島照男） 23
船舶砲兵第一連隊（暁第二九五三部隊）教育隊	（梅田進） 24
▽第5回（一九九三年）「戦争体験を語り継ぐ集い」感想から△	
すいとしんづくりに参加して思ったこと	（磯明子） 28
すいとしん作り・銃後の生活に想う	（今村定子） 29
すいとしん作りで思うこと	（奥井勲） 30
▽戦時体験記（2）△	
戦争体験を語り継ぐ集いに寄せて	（山野寛） 32
終戦の思い出	（木村正男） 38

目次

戦時中の思い出	（服部ひで） 2
兵隊へ行く前の助教生活	（池田陸介） 4
シベリアの凍土に埋めた戦友を 戦後四十九年目発掘遺骨を遺族へ	（橋詰四郎） 6
平和な世界の尊さを強く訴える	（吉田ふき） 9
鳴海の空襲	（鈴木修） 11
戦争の記憶	（伊藤貴代子） 13
つらかった集団疎開	（馬場勝幸） 16
戦争と私	（野竹智恵子） 19
あの頃を回想して	（大塚君子） 22
戦時体験記録集（第二集）発行の辞	25

目次

発行にむけて	(2)
恐かった空襲	(3)
岩間典夫（莫宝清）のこと	(9)
戦時の女学生生活	(19)
（無題）	(22)
苦しい時代でした	(24)
回想	(28)
渡辺正彦	

目次

「日本で一番長い日」	「神野 正人」	一頁
「一女学生の戦争体験」	「増原 美枝子」	七頁
「戦禍に埋もれた青春」	「加藤 すみゑ」	十一頁
「学徒義勇隊に参加して」	「近藤 鋤二」	十七頁
「戦中・戦後の暮らし」	「波止 文雄」	二二頁
「終戦後の思い出」	「竹中 恵美子」	二七頁
「雪国のB二十九」	「須藤 和男」	二九頁
「戦争体験を心に」	「阪野 美雪」	三三頁
△特別掲載▽子どもたちと歌いたいうた	「楽譜（歌詞）」	三八頁

（沢田昭二氏からの聴き取りをもとに）

目 次

はじめに	古澤 秋子	二頁
体験記 終戦後	井川 啓	三頁
私の体験記	竹中 恵美子	六頁
母の戦中戦後	石河 孝益	八頁
終戦と母	大村 達雄	一三頁
終戦当時の記録	近藤 劔二	一五頁
有松捕虜収容所	藤島 繁博	二十頁
ほんとうにあったよ	藤島 繁博	二三頁
捕虜収容所	久野 滝蔵	二八頁
報國第五八一三號	神野 正人	三一頁
「鳴海號」何処へ	高宮 文恵	三七頁
戦争を語り継ぐ		四九頁
空襲		
夕焼けの丘		
《特別掲載》		
「早く逃げなさい」「ごめんなさい、お母さん」		
歌「ごめんなさい お母さん」		
編集後記		

目 次

発刊のことば			
養蚕業の家で	石 河 孝 益	1 頁	
戦争が引き起こした物資不足～我が家の自給自足～	伊 藤 勝 見	2 頁	
B29による爆撃	大 村 達 雄	5 頁	
敗 戦	川 部 茂 子	7 頁	
母	鬼 頭 清 花	9 頁	
私の終戦	柴 田 劔 三	11 頁	
学童疎開	玉 岡 忠 子	12 頁	
幻の友	中 川 美智子	14 頁	
戦中の青春	二階堂 美智代	16 頁	
戦時体験記録	林 敏 之	18 頁	
米軍58機動部隊来襲	平 野 善次郎	20 頁	
思い出すままの誌	藤 島 繁 博	21 頁	
子供の遊びと物作りの楽しさ	舟 岡 邦 雄	23 頁	
戦争中の思い出	古 沢 貢	25 頁	
戦争体験の歌《ごめんなさいお母さん》		26 頁	
編集後記			

目次

発刊のことば	．．．．．	一
一本の羊羹 ようかん	．．．．．	二
私の戦時体験	．．．．．	四
艦砲射撃 かんほう を受けた経験	．．．．．	八
旧海軍兵学校の資料〔中日新聞社提供〕		
江田島（旧海軍兵学校）の寸描	．．．．．	一四
弟よ	．．．．．	二七
コラッ！珍念、居眠りしてはいかんぞ！	．．．．．	三二
女の私に戦後はない	．．．．．	三九
聞いた人 橋詰四郎		
天神山は戦争を覚えている	．．．．．	四九
くらしの作文より〔中日新聞社提供〕	．．．．．	五四
戦争体験の歌《ごめんなさいお母さん》	．．．．．	六〇
編集後記	．．．．．	六十二

◇目次◇

発刊のことば	．．．．．	一	戦中戦後の生活報告（古井和男）	．．．．．	五二
播磨（石河孝益）	．．．．．	二	大人の国 ― たいじんの国 ―		
食べられるものは何でも食べた			（話陰地茂一・文章化 橋詰四郎）	．．．．．	五八
（川松俊夫）	．．．．．	七	戦中戦後の暮らしについて		
戦時の思い出（櫛野弘文）	．．．．．	十一	（山田俊治）	．．．．．	七二
戦後、彷徨の旅（田辺博）	．．．．．	十七	今だから語れる私の終戦記		
私の戦争体験記（玉置留男）	．．．．．	三二	（渡辺甲子男）	．．．．．	七八
無題（中村）	．．．．．	三八	兵隊と村人（梶野渡）	．．．．．	八四
三人の大元帥に翻弄された私の青春			戦争体験の歌		
（橋詰四郎）	．．．．．	四十	《ごめんなさいお母さん》	．．．．．	一〇六
軍人遺族の痛恨（伴岩勇）	．．．．．	四七	編集後記	．．．．．	一〇八

目次

新型爆弾の命令受領	橋詰 四郎	一頁
若くして逝った妹達よ	太田 久江	二頁
父親のような兵をなぐる若い将校	竹内登美子	三頁
死んだと思った兄が帰ってきた	奥村 清	五頁
少年時代の思い出	吉川 英治	七頁
終戦の哀史	川口 篤孝	十頁
戦争の残像	高橋 幸雄	十一頁
私の軍隊生活	坂 鉦位知	十三頁
チャコちゃん	石河 孝益	十五頁
戦争体験	能村とし子	十七頁
私の戦中・戦後	山田美智子	十八頁
紙	竹中恵美子	二十頁
戦災の思い出	山内 正雄	二十一頁
白虹日を貫く	渡辺 正彦	二十三頁
♥世界の子どもたちに愛を♥ 歌唱指導	土井貴紅子	二十四頁

目次

三人の大元帥陛下に翻弄された青春	橋詰 四郎	一頁
祖父母達の太平洋戦争	柘植脩一郎	三頁
祖父母達の太平洋戦争	岩田真奈美	五頁
戦争はこの世の生き地獄でした	平賀 房子	七頁
戦争と私	片山 清和	九頁
戦争と私の青春	中野 秀雄	十一頁
戦争で抑圧された日常生活	安藤 實禪	十三頁
日本の無条件降伏とイラク戦争	渡辺甲子男	十五頁
敗戦時から戦後についての思い出	匿名	十七頁
地獄のシベリアから生還す	吉田 勇雄	十九頁
なぜ私が「生体手術演習」		
をする軍医になったのか	湯浅 謙	二十二頁
掃 除	石河 孝益	二十四頁
戦時歌謡のページは二十五頁にあります		

目次

「逆縁時代」と昭和呼びたい	橋詰 四郎	一頁
私は十六歳で兵隊になった	鈴木 重治	二頁
謹んで故山口曹長の英霊に捧ぐ	川口 篤孝	五頁
油脂焼夷弾	田野 武	一四頁
命を考えてください	小出 信子	一六頁
目の前で校舎炎上	浅野 憲治	一八頁
飛行機行進曲	近藤 匡一	二〇頁
私の戦争体験	広田 武司	二二頁
黒河事件に巻き込まれる	西向 克巳	二五頁
黒河事件今も忘れじあの苦闘	上村喜代蔵	三三頁

目次

私の昭和史（少年編）	橋詰 四郎	一頁
祖父母たちの太平洋戦争	前田 宗佳	六頁
祖父母たちの太平洋戦争	大木 啓輔	八頁
祖父母たちの太平洋戦争	下原 良輔	九頁
おに坂	石河 孝益	一二頁
終戦復興期の子ども頃	川松 俊夫	一三頁
虐殺 I	大川 孝次	一五頁
虐殺 II	片又 利雄	一七頁
照明弾の光芒	津村 節	一八頁
私が書き残しておきたかったこと	江本 忠雄	一九頁
学童疎開引率奮闘記	玉岡 忠子	二二頁
私たちの少年時代	梅原 謙一	二六頁
戦争で極限を体験	小島 逸雄	二七頁
ソ連法廷で政治犯二十五年刑	篠田 恒	二九頁
戦争が終り平和になってから	多田 久男	四三頁

目次

警察署裏で人糞を焼く（少年期Ⅱ）	橋詰 四郎	一頁
平和憲法は父からのプレゼント	江間万里子	五頁
祖母たちの太平洋戦争	伊藤ゆきの	七頁
祖母たちの太平洋戦争	近藤かおる	九頁
祖母たちの太平洋戦争	浅井 純	一四頁
祖母たちの太平洋戦争	加賀 元貴	一五頁
祖母たちの太平洋戦争	伊藤 晴香	一六頁
祖母たちの太平洋戦争	近藤 一輝	一七頁
戦争は一人息子も長男も兵隊に	福井 清	一八頁
幾度も地獄から助けられる	山岡 三夫	二一頁
軍国愛国少年の現在	佐藤 謙治	二六頁
六十年目の終戦の日に生会えて	住田 豊信	二八頁
戦争展から思う「平和」と言うこと	大川 孝次	三五頁
戦禍の下五歳児の刻印	多田代志子	三七頁
女学生の戦争体験	能村とし子	三九頁
支那事変の最初を戦う	木下 秀麿	四〇頁
大空に散った若桜	木場英一郎	四三頁
お国のため	鳥山 進	四五頁

目次

スターリンへの感謝文を読む前に	橋詰 四郎	一頁
スターリン大元帥へおくる感謝文	増田 金綱	三頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 松本 拓磨	十一頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 塩野 有加	十三頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 花井 玲菜	十五頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 寺澤 光姫	十六頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 杉田 大知	十八頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 加納 孝仁	二十頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 高木 宏明	二十一頁
祖母達の太平洋戦争	中学二年 山田 泰豊	二十七頁
恐ろしかった戦争 孫達へ	森村 匡伺	二十九頁
中学二年生の日記より	藤井 明男	三十頁
戦争について	井戸 久子	三十二頁
空襲下交換台を守った女性達	緒川 文子	三十五頁
激動の少年時代	小寺 秀男	三十六頁
軍隊五ヶ月捕虜三年	吉田 勇雄	三十九頁
私の青春	伊藤 万平	四十頁
雪に埋もれた怨念	木内 久澄	四十二頁
男狩り	若尾 和延	四十三頁

目次

戦争中の国民学校	近藤 是	一頁
祖父母たちの太平洋戦争	服部 真由	五頁
祖父母たちの太平洋戦争	桂林 伸伍	七頁
祖父母たちの太平洋戦争	近藤 匠	八頁
祖父母たちの太平洋戦争	竹下 宏幸	一〇頁
祖父母たちの太平洋戦争	西 厚志	一一頁
祖父母たちの太平洋戦争	片出 剛央	一三頁
祖父母たちの太平洋戦争	白木 実里	一四頁
祖父母たちの太平洋戦争	高木 聖里那	一六頁
祖父母たちの太平洋戦争	永井 優歩	一八頁
祖父母たちの太平洋戦争	船橋 朋	二〇頁
祖父母たちの太平洋戦争	堀部 智恵	二二頁
祖父母たちの太平洋戦争	久門 拓	二四頁
祖父母たちの太平洋戦争	三矢 明宏	二五頁
祖父母たちの太平洋戦争	浅井 奈都美	二七頁
祖父母たちの太平洋戦争	大谷 香織	二九頁
祖父母たちの太平洋戦争	松田 奈穂美	三一頁
祖父母たちの太平洋戦争	松田 奈穂美	三三頁
広島原爆投下と		
沖繩ひめゆり部隊	富田 志織	三五頁
新聞投稿文：広島市民らの無念の慟哭が	橋詰 四郎	三八頁
広島原爆と被爆者	肥田 舜太郎	三九頁
戦争は愚かなこと	安岡 隆一	四三頁
生体手術演習の実相	湯浅 謙	四六頁
新聞投稿文：核の脅威隠し犠牲求めた軍	橋詰 四郎	四九頁
生死を分かつ数時間	稲葉 迪夫	五〇頁
血液を提供した報酬	橋詰 四郎	五一頁
死臭漂う十八分所	井上 龍助	五三頁
映画「日本の青空」の主人公		
新聞投稿文：憲法感謝デーGWに制定を	中村 幸夫	五六頁
新聞より：戦後日本兵捕虜はなぜ脱走	橋詰 四郎	五九頁
	朝日新聞記事	六〇頁

目次

レジュメ	父の戦争体験を	語り部 船曳 愛子	一頁
レジュメ	侵略戦争に反対した僧侶	語り部 近藤 弘子	二頁
レジュメ	その災難は死後へも続く	語り部 小林 靖	三頁
レジュメ	記憶にない父はシベリア永久凍土	語り部 大村 達雄	四頁
レジュメ	に眠ると言われ	語り部 伊藤 君代	七頁
シベリア捕虜強制労働体験者新聞投稿文		橋詰 四郎	一四頁
レジュメ	軍国少年であった私	岡本 澄子	一五頁
旧満州国略図		多田 幸子	一七頁
戦争になったら今度はあなたかもよ		足立 加代	一八頁
死の街・チチハル			
満州開拓村・開拓団とは			
万宝山の開拓団			
痛哭の記			
忘れない手のぬくもり			
引揚者の母「田端ハナ」さん			
平(たいら) 棧橋物語			
平棧橋復元式進行中			
奇跡か執念か偶然か?			
軍人に賜りたる勅諭(表紙よりつつく)			
戦陣考			
	橋詰 四郎		三五頁

目次

レジュメ	今につづく戦犯家族の悲しみ……………	語り部	伊藤	万平……………	一頁
レジュメ	愛国少年陸軍に志願しました……………	語り部	伊藤	芳雄……………	二頁
レジュメ	学徒動員履く靴も下駄もなく……………	語り部	伊東千賀子……………	三頁	
レジュメ	鳴海の空襲……………	語り部	大村	達雄……………	四頁
レジュメ	学童疎開空襲・地震の恐怖……………	語り部	澤山	昭八……………	五頁
レジュメ	戦争を知らなくても……………	語り部	佐藤	幸子……………	六頁
私の戦記	撃沈から投降まで……………	語り部	上野	三郎……………	七頁
特別投稿	…忘れることの出来ないあの日……………		広田	和子……………	一〇頁
ヒロシマ	そして舞鶴……………		橋詰	四郎……………	一二頁
死体は谷底へ……………			市田	高支……………	一五頁
魚が屍体を……………			高森	香……………	一九頁
死を呼び込む埚埵に生きて……………			伊藤	善吉……………	二一頁
従軍看護婦回想録……………			小宮山	里野……………	二三頁
語り継いでほしい満州棄民……………			綱本	タヨネ……………	二七頁
流転の万年一等兵……………			長尾	堅造……………	三〇頁
十七歳の志願兵……………			佐藤	義夫……………	三三頁
戦争を知らなくても……………			佐藤	幸子……………	三四頁
学徒動員中の戦争体験……………			大村	達雄……………	三五頁
神風は吹かなかった……………			伊藤	万平……………	三七頁
何が玉砕に追いやったか……………			伊藤	万平……………	三八頁
引揚の史実を語る舞鶴平棧橋……………			橋詰	四郎……………	三九頁

目次

解説・表紙と国会議事堂	伊藤 万平	1頁
証言・それは尊い平和の働き	後藤 正史	2頁
レジュメ 騙されたらあかん		
レジュメ ー祖母の強いことばー	語部 青山千鶴子	3頁
レジュメ ピースあいち・との出会い	語部 小島 久志	4頁
レジュメ 戦死より病死の多かった中国戦線	語部 伊藤 芳雄	5頁
レジュメ 名古屋空襲と疎開と 生涯後を引く戦争を憎む	語部 速水 民子	6頁
レジュメ 名古屋での空襲体験 ー生き残った母子二人ー	語部 井爪 光子	7頁
レジュメ 知らなかった (隠された) 京都の空襲	語部 斎藤 田	8頁
私の戦争体験	伊東千賀子	10頁
出征	大野 文也	11頁
真夜中火の海を父の誘導で助かる	澤山 昭八	12頁
新聞投稿 抑留謝罪機にロシア見直す	橋詰 四郎	14頁
棄民のあしあと		
戦争が終り世界が日本が平和になってから	夏梅 誠一	15頁
三人の大元帥に翻弄された私の青春	橋詰 四郎	37頁
引揚げ二話	佐藤登代子	41頁

目次

レジュメ	父の手紙から戦中・戦後の 遺族の生活を見る	語部	緒川 文子	1 頁
レジュメ	十九歳で陸軍に志願 中国戦線へ派兵さる	語部	伊藤 芳雄	2 頁
レジュル	母二十四歳・私四歳 を残し父は戦病死	語部	速水 民子	3 頁
レジュメ	見よう 学ぼう 考えよう 戦争と平和の資料館	語部	小島 久志	4 頁
飛行場の思い出	カピースあいちカ	語部	白石 英一	5 頁
今想う『祖父の無念さ』			斎藤 出	6 頁
名古屋は一晩中燃えていた			佐藤 国枝	8 頁
恐ろしかった戦争 孫たちへ			森村 匡伺	9 頁
夏の日に思う			杉村 征郎	9 頁
戦争は体験していないけれど			加藤洪太郎	11 頁
私の「8・15」前後			湯浅 俊彦	13 頁
シベリア捕虜の頃			橋詰 四郎	15 頁
罪状示さず 懲役二十五年 シベリア鉄格子の中で			小池 義人	19 頁
平和になってから満州に 見捨てられたカ 棄民のあしあとカ			夏梅 誠一	28 頁
特攻出撃前の頭の中			稲葉 迪夫	46 頁

目次

レジュメ	軍馬と一緒に死の皇軍	語部	伊藤 芳雄	1 頁
レジュメ		語部	小島 久志	2 頁
レジュメ	名古屋の空襲	語部	瀬間都美子	3 頁
棄民のあしあと			夏梅 誠一	4 頁
復刻版発刊にあたり				11 頁
復刻版 頁				12 頁

目次

レジュメ・有松の戦中・戦後	語部 福岡 友一	1 頁
レジュメ・お母さん	語部 伊藤 芳雄	2 頁
レジュメ・シベリアへ	父の墓を探しに 語部 小林 靖	3 頁
レジュメ・杉原千畝『命のヒザ』	語部 小島 久志	4 頁
読書感想文		
”あの日、広島”を読んで	高木 詩乃	5 頁
読書感想文		
”ピカドン”を読んで	高木 葉月	6 頁
記憶と戦争	内藤はるの	7 頁
新聞記事（提供）		
悲惨な戦場100歳「語部」	上野 三郎	8 頁
戦争で家族・家も奪われ	速水 民子	9 頁
昭和16年〜22年		
召集・敗戦・シベリア捕虜7年の記録	渡辺 敬止	1 頁
舞鶴引揚げ桟橋復原式で奇跡	橋詰 四郎	2 頁
”棄民のあしあと”	夏梅 誠一	2 頁

もくじ

レジュメ・おじいちゃん聞かせて	語部 小島 久志	1 頁
レジュメ・軍馬に助けられた命	語部 伊藤 芳雄	2 頁
レジュメ・母の死で初めて知った父	語部 関谷 敏雄	3 頁
レジュメ・731部隊をみつめて	語部 神谷 則明	4 頁
白衣を再び戦場の血でよごさないために	五十嵐 真理子	5 頁
戦争はこんなにも惨い	野田 光輝	1 頁
敗戦の頃の想い出	千賀 重安	1 頁
踏みにじられた人間性	小川 雅康	1 頁
生きること	田邊 泰	1 頁
勤労動員に明け暮れた学生生活	鈴木 大昭	1 頁
わが家が燃えてしまった	井村 正則	1 頁
戦争体験記・良かったことふたつ	鈴木 ツヤ	2 頁
私の逃避行	小倉あやよ	2 頁
満蒙開拓団	西岡 秀子	2 頁
戦争の被害者	伊藤 安治	2 頁
吸血ダニ	宇野 宗佑	2 頁
棄民のあしあと 平成23年〜26年までのあらすじ	編集 子	3 頁
棄民のあしあと	夏梅 誠一	3 頁
教育勅語で育てられた少年期	橋詰 四郎	4 頁
私のしたこと	陰地 茂一	5 頁
戦後七十年戦争終結前後	日ソ不可侵条約他	6 頁

目次

表紙・大東亜共栄圏構想図考	一頁
脳裏に残る別れた父	四頁
出征家族を襲うB29	六頁
銃後を悲惨に追いついた戦争	八頁
棄民の足跡（あらすじ）	十一頁
棄民の足跡（完結篇）	十五頁
自分史（十六歳～十九歳）橋詰四郎	二十五頁
三十頁～三十四頁戦争歌とマスコミ	
三十頁♪肉弾三勇士♪日本国民歌♪	
三十一頁♪少国民愛国歌♪みくにの子供♪	
三十二頁♪大陸行進曲♪父よあなたは強かった♪	
三十三頁♪兵隊さんよありがとう♪	
三十四頁♪防空の歌♪出せ一億の底力♪	

戦時体験記録集＜第24集＞

◆目次◆

語り部さん記録

戦時中の女学生の体験から（五十嵐桂葉）	P1
『学童集団疎開』の一員として（八神邦子）	P3
満州のこと（紺田尚良）	P4
広島の人たちの祈りにより今在るこの命（橋詰四郎）	P6

飛翔より

"棄民"のあしあと(56)（夏梅誠一）	P12
"棄民"のあしあと(58)（夏梅誠一）	P14
私の第二次大戦（中村昭乃）	P16
中国残留孤児（西園秀子）	P18
勸進橋（板本吉之）	P20
忘れえぬ人々(3)一噴飯（山間朽木）	P22
私の中国物語(少年篇) 6一妻と娘の為に（星博人）	P24
愛すること（田中昭夫）	P26

戦時体験記録集＜第26集＞

◆目次◆

語り部さん

戦前の無産者医療運動に学ぶ（室生昇） - - - - - P1

軍国少年（小島久志） - - - - - P3

子どもたちも兵器づくりに加わった。70年前、緑区で
緑区と戦争3：日付のある緑区の空襲＜発掘＞（橋本辰夫） - - - P4

戦時体験記録

「早く逃げなさい」
「ごめんなさいお母さん」（沢田昭二） - - - - - P7

戦時の女学生生活（鈴木定江） - - - - - P11

満州のこと（紺田静子） - - - - - P13

富山大空襲について（上田英二） - - - - - P14

飛翔より

私の昭和は・・・その1・その2（夏梅誠一） - - - - - P15

故橋詰四郎さん追悼に寄せて

橋詰四郎さんと私のこと（水野晴仁） - - - - - P19

橋詰四郎さんは平成の時代30年間で「戦争体験を語り継ぐ集い」を支え続けてこられた方です。哀悼の意を込めて活動の一端をご紹介します。

戦時体験記録集

第二十六集

二〇一九

（令和元）年

語り継ぐ集い

第三十一回

戦時体験記録集＜第25集＞

◆目次◆

語り部さん

あゝ悲愴 雲南の空に散る 回想録より抜粋（伊藤万平） - - - P1

有松裏に捕虜収容所があった（佐野みつ子） - - - - - P3

戦病死があいついだ中国戦線（伊藤芳雄） - - - - - P4

一兵士の目線から実感するものー
『日本軍兵士ーアジア太平洋戦争の現実』より（吉井弘和） - - - P5

飛翔より

それから私たちは（その6）・（その7）ともかせぎ（その1）
（その8）ともかせぎ（その2）（夏梅誠一） - - - - - P7

老耄つれづれ（16）病歴・病院・意思のことなど（2）（長井大） - P12

戦時体験記録

戦闘中負傷現認書（橋詰四郎） - - - - - P15

父親のような兵を殴る若い将校（竹内登美子） - - - - - P17

毎日が芋など入ったご飯の思い出（緒川文子） - - - - - P19

銃後の暮らしの体験（江間万里子） - - - - - P20

舞鶴引揚記念館・復元引揚棧橋を訪ねて

平和への思いを新たに（荒川淳子） - - - - - P22

戦時体験記録集

第二十五集

二〇一八

（平成三十）年

語り継ぐ集い

第三十回

＜第28集＞戦時体験記録集

◆目次◆

語り部タイム

在満少国民の戦中・戦後体験

ピースあいち語り手の会 会員（松下哲子） - - - - - P1

有松俘虜収容所紙芝居について（福岡友一） - - - - - P5

有松俘虜収容所の話を伝えていく（上田英二） - - - - - P6

紙芝居*有松俘虜収容所の話

【戦争の時代*お灸と指輪】 - - - - - P7

戦時体験者への思い

風化させないために

小さなことでも 聞こう 伝えよう（佐野環） - - - - - P15

欧州の見聞きした戦争体験

～私が住んでみて～（山口道子） - - - - - P16

戦時体験記録集

第二十八集

二〇二二

（令和三）年

語り継ぐ集い

第三十三回

＜第27集＞戦時体験記録集

◆目次◆

2019年 語り部タイム記録

戦前の無産者医療運動に学ぶ（故室生昇さま） - - - - - P1

軍国少年（小島久志） - - - - - P5

子どもたちも兵器づくりに加わった。70年前、緑区で
緑区と戦争3：日付のある緑区の空襲＜発掘＞（橋本辰夫） - - - P8

戦時体験と戦後の記録

昭和の暮らしと戦争（福岡友一） - - - - - P13

終戦後の生活あれこれ（馬場雅子） - - - - - P14

兵士の子供たちに遺された「負の遺産」
慈雲寺住職（宮田随麗） - - - - - P15

飛翔より

私がそのころうたっていた歌（伊藤安治） - - - - - P17

母と私の満州引き上げ（西岡秀子） - - - - - P18

私の8月15日前後（湯浅俊彦） - - - - - P20

戦時体験記録集

第二十七集

二〇二〇

（令和二）年

語り継ぐ集い

第三十二回

<第30集>戦時体験記録集

◆目次◆

語り部タイム

- 満蒙開拓団 - ひとり生き残って
10歳の絶望から平和の大切さを伝え続ける
ピースあいち語り手の会 会員（橋本克巳） - - - - - P1
- 戦後にも禍根を残す
戦争体験語り継ぐ会 会員（江間万里子） - - - - - P3
- 昭和のくらしと戦争
戦争体験語り継ぐ会 会員（福岡友一） - - - - - P3

2022年語り部タイム記録

- 電話が太平洋戦争でどのように活用されたか！
戦争体験語り継ぐ会 会員（緒川文子） - - - - - P5
- 展示品の説明（会員） - - - - - P7
- 『“兵士の子どもたち”の体験をも語り継ぐ』
一戦争体験者の経験が世代を超えて及ぼす影響とは一
（西山浄土宗慈雲寺住職・旅行ライター 宮田随麗） - - P9

戦争体験に触れて

- 一『死の転進』豹兵団輜重兵第30聯隊の記録一
豹12032部隊戦記編集委員会 発行
戦争体験を語り継ぐ会 会員（須原敏行） - - - - - P15
- 豊川海軍工廠跡の戦争遺跡の見学会
戦争体験を語り継ぐ会 会員（大橋公雄） - - - - - P26

戦争体験を語り継ぐ集い

- 戦時体験記録集の歴史その2 - - - - - P29

<第29集>戦時体験記録集

◆目次◆

語り部タイム

- 電話が太平洋戦争でどのように活用されたか！
戦争体験語り継ぐ会 会員（緒川文子） - - - - - P1
- 『“兵士の子どもたち”の体験をも語り継ぐ』
一戦争体験者の経験が世代を超えて及ぼす影響とは一
（西山浄土宗慈雲寺住職・旅行ライター 宮田随麗） - - P3

2021年語り部タイム記録

- 在満少国民の戦中・戦後体験
ピースあいち語り手の会 会員（松下哲子） - - - - - P5
- 紙芝居*有松俘虜収容所の話【戦争の時代*お灸と指輪】 - - P16
有松俘虜収容所紙芝居と伝えていくこと（福岡友一&上田英二）
- すいとん試食会について（小南祥恵） - - - - - P22

戦争体験を語り継ぐ集い

- 戦時体験記録集の歴史その1 - - - - - P24

<第32集>戦時体験記録集

◆目次◆

2025年語り部タイム

私の空襲体験とバンデリンドームナゴヤ (ピースあいち語り手の会 会員 森下規矩夫)	- - - - -	P1
名古屋空襲～空からのまなざし～ (名古屋空襲研究会会員 東海高校教諭 西形久司)	- - - - -	P3

2024年語り部タイム記録

戦争の中で人は(大橋路代)	- - - - -	P7
シベリア抑留と引き揚げ(案内役:現職高校教諭 水野晴仁)	- - - - -	P12
展示品説明(戦争体験を語り継ぐ会会員 吉井弘和)	- - - - -	P30

次世代からのメッセージ

父の新兵当時の体験(戦争体験を語り継ぐ会会員 吉井弘和)	- - - - -	P32
【なぜ今、核問題を考えるのか:知る・伝える】 (長崎大学核兵器廃絶研究センター客員研究員 西山心)	- - - - -	P33

<第31集>戦時体験記録集

◆目次◆

語り部タイム

戦争の中で人は(大橋路代)	- - - - -	P1
妻子を樺太(サハリン)に残して ジャングルに放り出されて 人間魚雷の命を受けるも シベリア抑留と引き揚げ	- - - - -	P4

2023年語り部タイム記録

- 満蒙開拓団 - ひとり生き残って 10歳の絶望から平和の大切さを伝え続ける ピースあいち語り手の会 会員(橋本克巳)	- - - - -	P5
戦後にも禍根を残す 戦争体験語り継ぐ会 会員(江間万里子)	- - - - -	P11
昭和のくらしと戦争 戦争体験語り継ぐ会 会員(福岡友一)	- - - - -	P12

体験者は語る

佐藤親房	- - - - -	P15
種池富美子	- - - - -	P18
舟岡洋子	- - - - -	P20
西崎邦雄	- - - - -	P24

2025年 語り部タイム記録

私の空襲体験とバンデリンドームナゴヤ

（ピースあいち語り手の会 会員 森下規矩夫）・・・・・・・・・・P1

名古屋空襲く空からのまなざし

（名古屋空襲研究会 会員 東海高校教諭 西形久司）・・・・・・・・・・P11

付 録 みどりフォーラム記録集

一九八九・一九九〇・一九九二年（平成元年・二年・四年）